特集

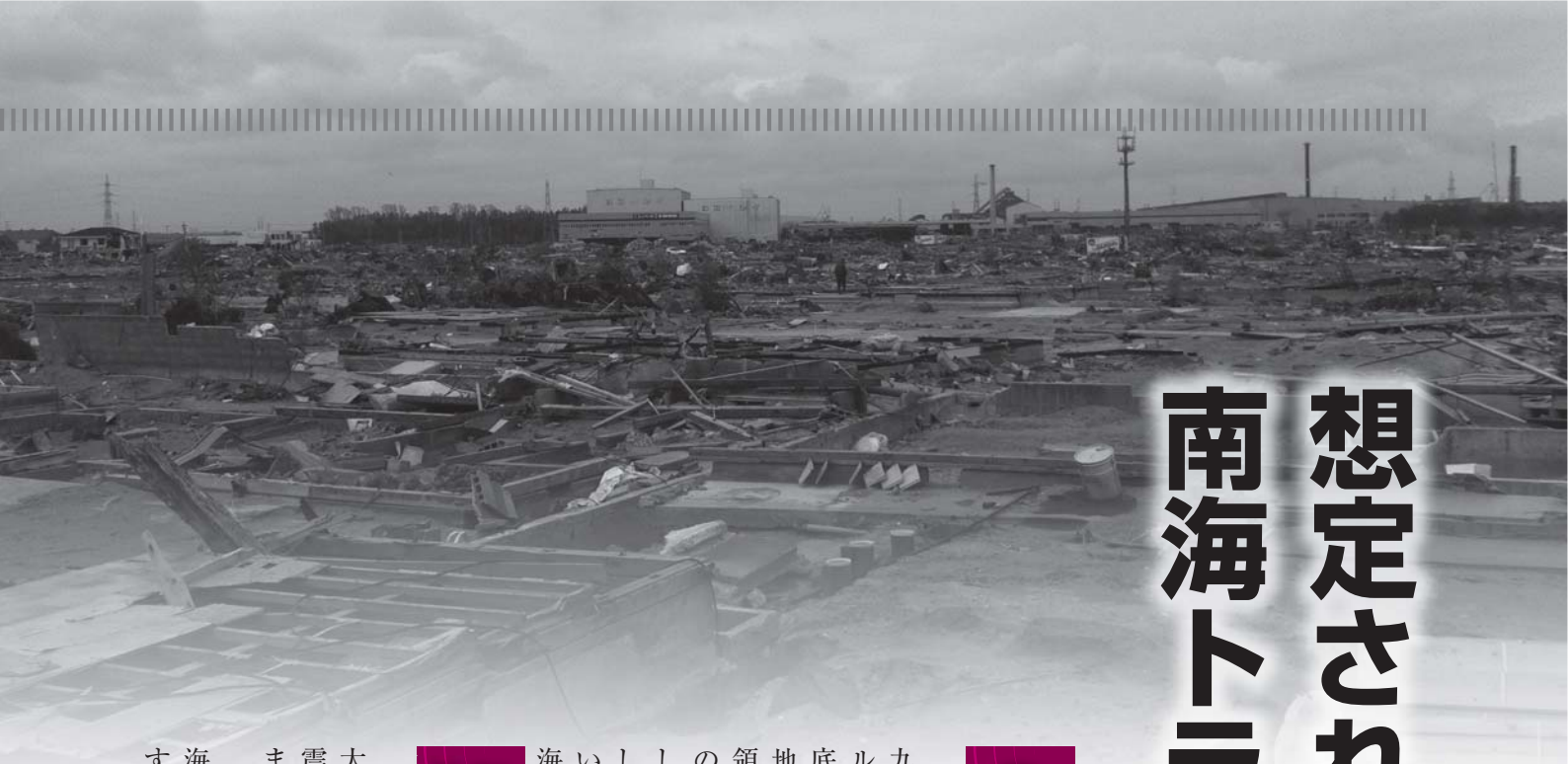
災害と向き合う

今年5月、政府の地震調査委員会は、東海から西の南海トラフで発生する巨大地震について、今後 30 年以内にマグニチュード 8 から 9 クラスの地震が発生する確率を 60%から 70%と公表しました。

仕事中、学校の帰り道、家族で食事をしている時、いつ、どこで地震が発生し、被災するか分かりません。しかし、地震が発生したその瞬間、何をすべきかを考え、少しでも被害を抑えるために準備をすることが重要です。

今回の特集では、地震が発生したその瞬間からとるべき行動を知り、災害と向き合って生きることについて考えます。

詳しいことは、防災対策課（89－2194）へ、お問い合わせください。



想定される南海トラフ巨大地震

東海地方に甚大な被害をもたらすとされる南海トラフ巨大地震。新たに公表された被害予測は、従来の予測を大きく上回るものとなっています。

南海トラフ巨大地震とは

南海トラフとは、静岡県から南九州までの沖合い約百キロメートル付近を、日本列島に平行して海底を走る深い溝のことをいいます。地表を覆うプレートが交わるこの領域では、過去百年から百五十年の間隔で巨大地震が繰り返し発生し、甚大な被害をもたらしてきました。いつ起こってもおかしくないとされている東海地震もこの南海トラフを震源域としています。

新しく見直された被害予測

東日本大震災を引き起こした巨大地震は、これまで想定していた震源の領域を大きく越えて発生しました。

これを受け、東海・南海・東南海の三つの地震領域を個別に予測する従来の手法が見直されました。新しい手法では、南海トラフ全域を一体として評価し、この領域でマグニチュード八から九クラスの地震が発生する確率や被害を予測する手法が用いられるようになりました。

被害予測では、東日本大震災と同じマグニチュード九クラスの地震が起きた場合、全国で最大三十二万三千人の死者、九百五十万人の避難者が発生すると想定しています。

想定される豊川市内の被害

県内で想定される被害は、死者数約二万三千人、建物の全壊・焼失数約三十八万棟としています。

豊川市内においても、最大震度七、死者数約一千人という大きな被害が想定されています。また、海岸や河川付近の比較的地盤のゆるい場所では地面が泥状となる液状化現象が発生するなど、揺れによる家屋の倒壊、建物火災を中心に、最大で約一万九千棟の建物が全壊・焼失するとの被害予測が公表されました。

南海トラフ巨大地震における豊川市の被害想定

（愛知県公表値）

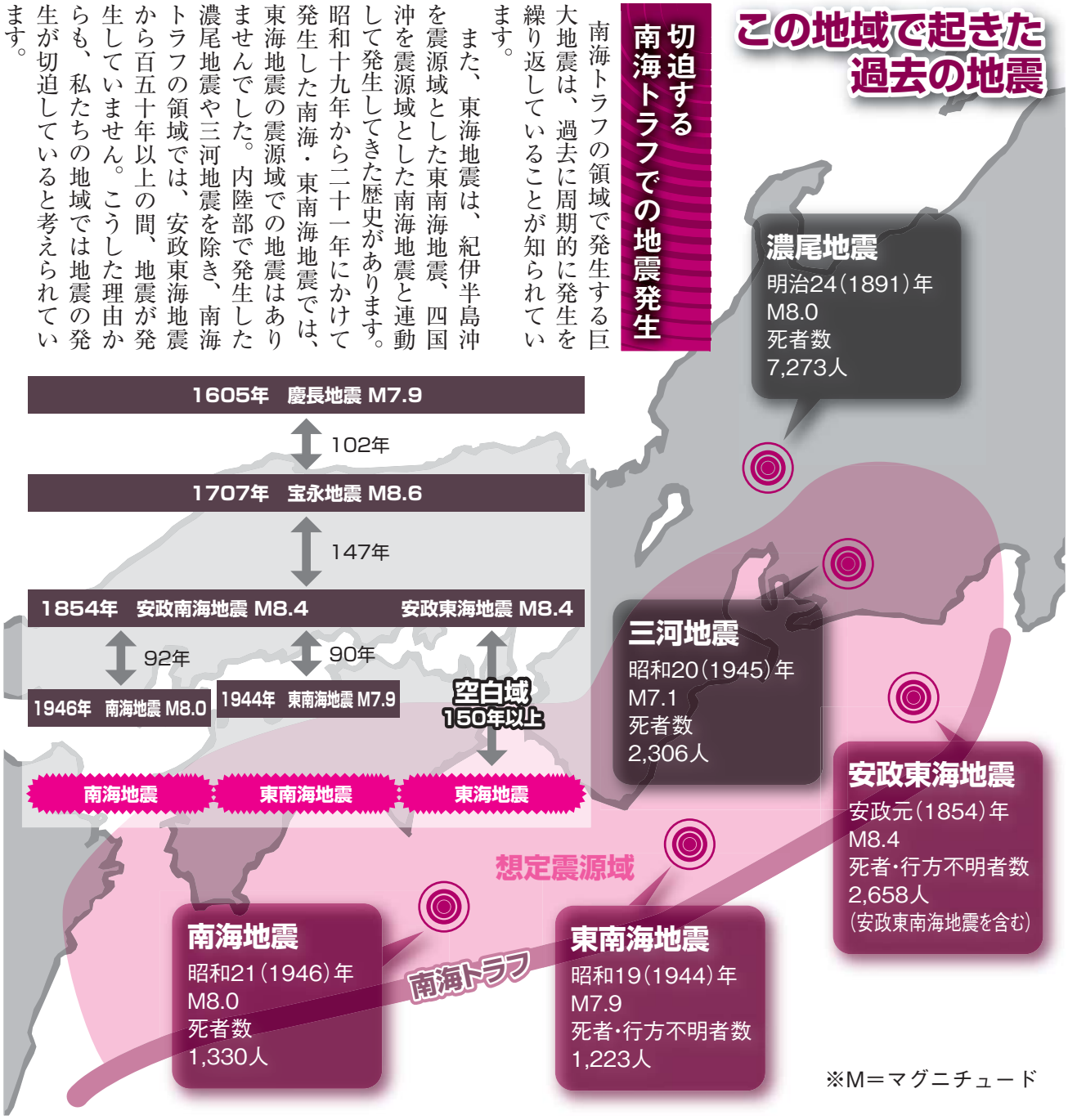
ケース	想定される全壊・焼失棟数
揺れ	約 14,000 棟
液状化	約 200 棟
浸水・津波	約 10 棟
急傾斜地	約 20 棟
火災	約 5,000 棟
合計	約 19,000 棟

ケース	想定される死者数
建物の倒壊など	約 900 人
浸水･津波	約 10 人
火災	約 100 人
合計	約 1,000 人

切迫する南海トラフでの地震発生

南海トラフの領域で発生する巨大地震は、過去に周期的に発生を繰り返していることが知られています。

また、東海地震は、紀伊半島沖を震源域とした東南海地震、四国沖を震源域とした南海地震と連動して発生してきた歴史があります。昭和十九年から二十一年にかけて発生した南海・東南海地震では、東海地震の震源域での地震はありませんでした。内陸部で発生した濃尾地震や三河地震を除き、南海トラフの領域では、安政東海地震から百五十年以上の間、地震が発生していません。こうした理由からも、私たちの地域では地震の発生が切迫していると考えられています。



歴史史料から見た市内の地震災害

旧御津町の歴史史料には、過去の大地震の歴史を示す記述がいくつか残されています。宝永四（一七〇七）年に発生した大地震では、御津町大草・泙野地区に津波が発生し、塩田が全滅し、広い範囲に渡って堤防が破損するなどの被害が記述されています。また、「御馬村誌」には、安政元（一八五四）年の大地震で、家屋の倒壊や御津町御馬の港にあった米俵が津波で流されたことなどが記録されています。

いずれも南海トラフを震源域とした地震による被害が、古くからこの地域にも発生してきたことを示しています。

安政東海地震の記述「御馬村誌」

巨大地震発生、その時から

地震が起きた時、あなたと家族の行動は決まっていますか。どんな状況でその時を迎えるか分かりません。事前に家族で地震発生時の行動を話し合っておきましょう。

地震発生

0分から5分
津波やがけ崩れが予想される地域では直ちに避難

5分～10分

まずは自分の身を守る

避難の準備

自宅

□頭を保護し、丈夫な机の下へ隠れる
□「まず身の安全」それから火の元を確認する
□揺れがおさまるまでは外に出ない

□ドアや窓を開け、避難口を確保する
□ガスの元栓を閉め、電気のブレーカーを落とす
□貴重品や持ち出し品を準備する

職場

□備品・ＯＡ機器類の落下に注意する
□大きな窓やキャビネットから離れる
□エレベーターを使用しない

□自宅が遠距離であったり、交通網が遮断し、帰宅が困難な場合は、むやみに移動を開始せず、会社にとどまるなどの措置をとる

学校

□机の下に隠れた時は、机の脚を両手でしっかり持つ
□屋外にいる時は建物から離れて身をかがめる

□先生の指示に従い、勝手な行動をしない
□保護者の迎えを待ったり、指定の場所に待機するなど、学校の指示に従いながら身の安全を守る

外出先

□割れたガラスや看板の落下に注意する
□自動販売機やブロック塀から離れる
□運転中は徐々に速度を落とし、路肩へ車を止める

□近くに空き地や公園などがあれば、迷わずそこへ避難する
□デパートなどでは、従業員の指示に従う

今、この時間に家族で話し合いましょう

巨大地震が発生したその直後から、何をすべきかを判断し、短い時間で対処しなければなりません。

そのためには、地震が発生した場合に、自分がするべきことを日頃から確認しておく必要があります。

今、この特集を開きながら家族で防災について話し合い、それぞれがとるべき行動をもう一度確認しましょう。

□家屋の安全点検

家具の転倒防止を行い、高い所に重いものやガラス製品が置かれていないかを確認し、安全なスペースを確保しましょう。

□避難する場所を確認

地域で定められている避難場所を確認しましょう。また、避難場所が広い場合は集合場所を決めておくことも有効です。

□災害時の連絡方法を確認

○災害用伝言ダイヤル『171』
安否情報を録音･再生できる声の伝言板です。(毎月1･15日に体験可能)
○災害用伝言板
携帯電話各社が提供するサービスで、文字メッセージを掲示板に残すことができます。

□持ち出し品などのチェック

持ち出し袋は自分の体力にあった重さのものを準備し、実際に持って逃げることができるか確認しておきましょう。

□豊川市防災メール

「豊川市防災メール」に登録して防災情報などを携帯電話やパソコンで確認しましょう。

QRコード

半日～3日

周りの人と助け合う

避難先では

地震発生後数日間は、水道、ガス、電気、電話などのライフラインをはじめ、食糧の供給が途絶えます。避難当初は、非常持ち出し品などで過ごすことになります。周りの人たちと助け合いながら、物資の供給やライフラインの復旧を待ちましょう。

□非常持ち出し品

- 飲料水
- 非常食
  （軽くて小さいもの）
- 懐中電灯、
  予備の乾電池
- 常備薬、救急セット
- ラジオ
- 下着の替え
- 貴重品　など

10分～半日

身の回りの安全を確保

避難所へ移動

家屋に倒壊の恐れがあったり、火の手や煙が近くに見えたりした場合はその状況に応じて避難場所へ移動してください。また、外出中の家族にメモを残すなど、連絡がとれないことを想定して行動しましょう。

隣近所へ声掛け

避難の際には、隣近所にも大きな声で避難を呼びかけましょう。
また、助けが必要な場合は、迷わず応援を求めましょう。

家族の安否確認

災害発生直後には、家族などの安否を確認するため、電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板などを利用し、家族の無事を確認しましょう。

情報収集

ラジオやテレビ、豊川市防災メール、同報系防災行政無線などを利用して、地域の災害情報、停電・断水状況を確認しましょう

同報系防災行政無線が聞き取れなかった場合は
0180-995-550
へ電話をして確認してください。